

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：やすらぎの家デイサービスセンター（認知症対応型通所介護）

日 時：令和 7 年 8 月 27 日(水)

場 所：やすらぎの家デイサービスセンター

出席者：

利用者代表	0 名	地域代表	1 名
利用者家族	1 名	地域民生委員	1 名
事業所職員	2 名	市高齢者福祉課	1 名

議題

1. デイサービスの利用状況について
2. 行事・活動について
3. 令和 6 年度ヒヤリハット分析
4. 出雲市内事業所の事故報告状況
5. 意見交換

●利用状況について

【令和 7 年 8 月現在 利用登録者 22 名の状況】

性別	男性 1 名	女性 21 名			
介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
分布	6 名	11 名	4 名	1 名	0 名
利用頻度	週 5 日	週 4 日	週 3 日	週 2 日	週 1 日
	1 名	6 名	4 名	8 名	3 名
平均年齢	86.09 歳（昭和 1 ケタ 7 名、昭和 10 年代 10 名、昭和 20 年代 3 名） 75 歳～98 歳				
平均介護度	2.09				

●行事・活動について

実施状況

3 月	ひなまつり会、誕生会、調理、彼岸（ぼたもち作り）
4 月	花見（加茂段部、馬木、斐川公園、一の谷）、一畑薬師 花まつり、チューリップ花見、よもぎ摘み、ギターと歌のボラさん、調理、おやつ作り
5 月	出雲大社大祭礼お参り、斐川オープンガーデン花見、誕生会、調理、おやつ作り
6 月	笹巻、植物画鑑賞（斐川図書館）、花しょうぶ花見（はまゆう自然館）、茅の輪くぐり（大社）、ハスの花見（荒神谷）、調理
7 月	七夕会、誕生会、調理

今後の主な行事

8月	納涼会、誕生会、調理
9月	長寿お楽しみ会、調理
10月	出雲大学駅伝観戦、阿須利神社お祭り、ハロウィン、調理、おやつ作り

●令和6年度ヒヤリハット分析

ヒヤリハットを転倒や異食など項目に分け、発生し起こしたことと、未然に防げたことを分けて記載。前年度に比べ、未然に防げた件数が多く、予測する力がついてきているように評価した。発生時間帯や起こった場所をまとめると、時間帯によって気を付けたい項目、場所によって起こしやすい事故があり、今後配慮していくよう周知した。

【事業所】

苦情相談においては第三者委員にヒヤリハット報告を含め状況の説明をし、解決に向けてのアドバイスをいただいている。予期せぬことが起こったことは対処するしかないが、人為的ミスは減らすこと、注意喚起し決めたことを忘れないように定期的に見直すことをアドバイスされ令和6年度は取り組みをして1か月後にどうだったか、見直し、改善したことを維持していくよう取り組んだ。

●出雲市事業所の事故報告状況【市高福課】

やすらぎの家のヒヤリハット分析と傾向は同じ状況。

事故に至る点では『この人は大丈夫』との思い込みが原因となっていることが多く事故に繋がるケースもあり、注意喚起として、定期的にヒヤリハットで分析したことをチェックシート等で確認していくことも必要と思われる。

時間帯での傾向としては、施設では朝の6時～6時59分、スタッフがバタバタし利用者が活動し始める時間帯が多い。

また夜間、22時～23時、スタッフが一人体制での時間帯に起こりやすい。

市のホームページでも掲載されているので参考にしてほしい。

●意見交換

【市高福課】

送迎は事業所の職員がしていますか？

【民生委員】

遠くからの人も受け入れされますか？

【事業所】

送迎は介護スタッフが行っており、新規の依頼があった時に、現在利用のある家とエリアが近いようなら離れた地域でも受け入れているが、あまりに離れている時は、近くの認知症対応型デイをお伝えし、お断りしている。

【民生委員】

地域では独居や77歳以上の高齢者の情報を把握するようになっているが、なかなか追いつかない状態。大津町は古い町でもあり、老々介護も多く、高齢者夫婦世帯ではどちらかが亡くなれば独居と

なり、一人になると認知症が始まるケースも多い。

私たちはコミセンで認知症の病識や対応など勉強会もあるが、やはり難しい。

【家族】

うちも独居なので、地域の自治会長へは必ず自分の連絡先を伝えている。回覧板を回すことも難しくなったため飛ばしてもらうように依頼。独居を続けることで近隣へ迷惑をかけることが一番心配。

【民生委員】

連絡先を知らせてあるのは一番ありがたい。何かあった時に、どこへ連絡すればいいかが一番困る。

【市高福課】

心配な方がいれば、まずあんしん支援センターへ相談してほしい。

【家族】

本人は近所へは何も言うなと言うが、30年生活していると、おかしいことに気付かれていると思う。災害時は自分が近くに住んでいるので、対応しようと思うが、隣の家の人にも急なことが起きたら、家で一緒に避難しておくからと言ってもらって安心している。

【民生委員】

近隣との連携、近所へ情報を伝えておくことは大事な事。コロナ以降おつきあいも減り、案外近隣の人が気づいていないことも増えたように思う。

【市高福課】

地域で認知症を理解してもらうために映画を上映したり、理解を深める催し物をしている。

【事業所】

老々介護で利用されていて、施設入所等で利用終了となると、これまでデイやヘルパーなどいつも家に人が来て、介護者へも声をかけるが、サービス終了とともに誰も来なくなり淋しくなると言われる家が多い。

【地域】

男性の介護者はなかなか口に出して言えない人も多いと思う。介護していると自分だけとり残されたような気持ちになると思う。

【民生委員】

サロンでも男性は少ない。プライドも邪魔していると思う。

【家族】

うちはデイへ出かける事も難しかったため、初めはヘルパー訪問を週に3日受け、1か月半立った所でデイサービスへ行くようにした。とても無理だと思っていたがスムーズに利用ができ、出かけている日は安心している。

【事業所】

うちのデイは、出かけにくい人が出かけられるきっかけとなるサービス。日数を増やしていき順調に出かけられるようになると、次の段階、今度は週末のサービスや泊りが必要になっていく。介護保険は利用限度額があり、限度額内で収まらない人は、単価の低い一般型のデイに変わる人もいる。出雲市では独自に限度額を超えた3割分を市が負担する制度があるが、ケアマネも書類等の負担もあり使う人がいない。

【市高福課】

確かにここ2年間、拡大を使ったケースはなくゼロでした。今年度1名申請しているが、過去においても利用は少ない。

【民生委員】

そういった制度があるのに利用件数が少ない、これは要因を見直すべきではないか？

【市高福躁】

ケアマネへ臨機応変に相談するよう伝え、有効に使えるようにしたい。貴重な意見を持ち帰ります。

●感想

【民生委員】

民生委員では地域の見守りが中心だが、こういったサービスの現状を知らない人も多い。色々な話を聞かせてもらい勉強になった、紹介方々仲間に報告したいと思う。

【地域】

デイは出かけるきっかけの場。人によってこの人にはこじんまりと小さなデイがいいとか、大人数の賑やかなデイがいいなど、アドバイスすることがある。まずは興味を持ってもらい、出かけられるようになるよう支援していきたい。